

東北海区沿岸水温予報 (2013年)

海域	経過 (12~1月)	現況 (1月下旬~ 2月上旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	青森県太平洋側沿岸定地水温は『かなり低め』から『平年並み』に推移した。	青森県太平洋側沿岸定地水温は『平年並み』に推移している。	青森県太平洋側沿岸定地水温は『平年並み』に推移するものと思われる。	FRA-ROMS予測結果、ならびに2月の日本海沿岸定線観測結果で、各層最高水温は0m~100mまで『平年並み』、流幅は船作線で『平年並み』、十三線で『かなり広め』、水塊深度、北上流量はともに『平年並み』。	特になし。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	【12月】 表面水温は、距岸10海里以内は全域「やや高い」。距岸10海里以東は全域「平年並み」か「やや高い」。 100m深水温は、距岸10海里以内はほぼ全域「やや高い」か「高い」。 【1月】 欠測	表面水温は、距岸10海里以内は県北部から中南部にかけて「平年並み」か「やや低い」。距岸10海里以東は県南部沖30海里付近が「高い」のほかに概ね「やや低い」から「極めて低い」。 100m深水温は、距岸10海里以内は県中部が「やや低い」のほかに「平年並み」。距岸10海里以東は県南部沖合30海里以東が「やや高い」か「高い」、県北部沖合30~40海里から県南部沖合40~50海里が「やや低い」か「低い」のほかに「平年並み」。	県北部沖と県南部沖で「やや高い」のほかに平年並みと予測。	統計的予測モデルによる。	マイワシの豊漁。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	〈1月上旬〉 『142° 30' E以西の沿岸水温は表層、100m深とも全域で平年並み、142° 30' E以東の沖合では38° Eライン付近に沖合域からの冷水波及がみられた。』 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は、9~12°C台となっていた。142° 30' E以西の沿岸では平年並み、142° 30' E以東の沖合では38° 30' Nライン付近で平年より0~2°C高め、38° Nライン付近で1~2°C低めとなっていた。 【100m深水温】 100m深水温については、8~12°C台となっていた。142° 30' E以西の沿岸は平年並み、142° 30' E以東の沖合では38° Nから38° 30' Nにかけて親潮系冷水の波及がみられ、1~2°C低めとなっていた。	〈2月上旬〉 『本県沖合の表面水温、100m深水温は黒潮系暖水の波及により、高めとなっている。』 【表面水温】 本県沿岸から沖合の表面水温は、7~13°C台となっている。平年と比較すると、仙台湾は0~1°C低め、牡鹿半島周辺は平年並みとなっているが、これより沖合は黒潮系暖水の波及により、0~4°C高めとなっている。 【100m深水温】 100m深水温については、8~12°C台となっている。表面水温と同様に暖水が波及し、平年よりも0~4°C高めとなっている。	〈3月〉 38° 50' Nライン(気仙沼沖)は沿岸から沖合まで平年並みで推移する。38° 30' Nライン(雄勝沖)の142° 30' E以西は平年並みで推移するが、142° 30' E以東はやや低めで推移する。 38° Nライン(亶理沖)の142° E以西は平年並みで推移するが、142° E以東はやや低めで推移する。 〈4月〉 3月の傾向と同様に推移する。	水温経験的予測システムの主成分スコア自己回帰モデルによる予測。	金華山周辺海域に黒潮系暖水が波及し、1月にマイワシ、カタクチイワシ、サバが断続的に定置網に入網、2月上旬はカタクチイワシ、マダラの他、サンマの水揚げがみられた。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	定線全体でみると、12月の表層、100m深とも「平年並み」であった。 1月は表層、100m深とも「やや高め」であった。 定線ごとにとみると、表層では、12月は塩屋崎、鶺ノ尾崎とも「平年並み」(富岡は欠測)、1月は塩屋崎、鶺ノ尾崎が「やや高め」、富岡は「高め」であった。 100m深では、12月は塩屋崎、鶺ノ尾崎とも「平年並み」(富岡は欠測)、1月は塩屋崎、富岡が「高め」、鶺ノ尾崎が「やや高め」であった。	2月の塩屋崎の結果は、表層で「極めて高め」、100m深で「高め」であった。 表層のうち、沿岸よりの定点はおおむね「高め」、沖合2点は「極めて高め」(S6:+5.4°C、S7:+7.0°C)であった。 100m深のうち、沿岸より2点(S3、S4)は「平年並み」、中間(S5)はやや高め、沖合2点は「極めて高め」(S6:+4.8°C、S7:+6.7°C)であった。	「平年並み~高め」で推移する。	1月に海洋観測で得た水温を用いて本県海域を3つのグループに分けて自己回帰分析を実施した結果、いずれの海域も2~4月とも「やや高め~高め」となった。 気象庁の1カ月予報では、親潮の面積は「平年よりかなり大きくなる」と予想され、房総半島における黒潮は「離岸、接岸を繰り返す見込み」となっている。 一方、FRA-ROMSによる予報では親潮第1分枝の先端は金華山沖~相馬沖であり、本県沿岸は黒潮主流の影響が強くなることが示唆されている。 いずれにせよ、黒潮系暖水、親潮系冷水の波及が沿岸域に及んだ場合、水温が大きく変動することが予想される。	特になし。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	12月上旬は、沿岸・沖合の表層および極沿岸では「平年並み」、沿岸・沖合の下層では「平年並み~やや高め」であった。 1月上旬は、沿岸・沖合の表層・下層では「やや高め~きわめて高め」、極沿岸では「平年並み~やや高め」であった。	2月上旬は、鹿島および犬吠崎定線では「平年並み~やや高め」、会瀬および大洗定線では「高め~きわめて高め」、極沿岸では「高め」であった。 潮流の特徴として、比較的強い(1ノット以上)真潮(北向きの潮流)および込潮(沿岸方向への潮流)が会瀬および大洗定線の一部で観測された。逆潮(南向きの潮流)はほとんど観測されなかった。	全域で「高め基調」で推移する。	①100m深水温を用いた自己回帰モデルによる解析では、2013年3~4月とも「高め基調」となる予測結果であった。 ②現況として、全域で「高め基調」である。 ③2月下旬現在、本県沖合で黒潮の流路変動がみられている。また、黒潮触行部の東進により、本県沖合で5月下旬までに数回黒潮の流路変動が起きることが予測される。黒潮の流路変動時に本県沿岸に暖水が波及する可能性がある。 ④親潮の面積は平年よりも大きく、親潮第1分枝は徐々に南下するとみられるが、金華山沖で北上する暖水に沿岸寄りの南下を阻まれ、沖合側を迂回するとみられる。よって、本県海域への冷水の影響は小さいものと予測される。	①2月の海洋観測において、会瀬沖合(A-8・9)および大洗沖合(0-9・10)の0~100m深で1975年以降での月別最高水温が記録された。黒潮主流の流路が本県沖合を北偏傾向で通過した影響によるものとみられる。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分 (出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸 10 海里内	距岸 10～70 海里			
極めて高い (2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い (7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い (20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並 (40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い (20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い (7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い (2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～